

容器包装に対する消費者意識調査の概要

資料4

(過剰包装に関する抜粋)

調査名	容器包装3Rに関する消費者の意識と行動の実態調査	容器包装リサイクル制度を取り巻く情報調査・分析事業	市民インターネット座談会レポート
概要	(実施主体)3R推進団体連絡会 (調査時期)2011年6月 (調査対象)インターネットリサーチによる15歳から69歳の男女3,000サンプルに対する調査	(実施主体)経済産業省委託事業 (調査時期)2012年12月 (調査対象)インターネットリサーチによる20～60代の男女3,000名に対するアンケート調査及びインタビュー調査	(実施主体)農林水産省補助事業 (調査時期)2013年10月～11月 (調査対象)市民インターネット座談会サイト「暮らしの根っこ」において、一般市民から簡易包装に関するテーマの意見募集(投稿者:20～60代の女性97%、投稿数:①148件②70件)
調査結果	<p>①過剰包装と感ずる容器包装について 贈答品の多重包装は約6割、衣料品の厚紙・菓子の個包装、野菜などのトレイや個包装、レトルト食品の紙箱は4割弱が過剰包装と捉えている。 単身世帯では、「野菜・果物などのトレイや個包装」を過剰包装と捉えた割合が全体より10ポイント低い。 その他、ファーストフードのテイクアウト時の包装23.8%、ストロー・割り箸23.4%の個包装などが過剰包装と捉えている。</p> <p>②環境問題全般への意識について 「3R」の認知度は、言葉の意味を知っている36.6%、言葉の意味を知らない63.4%で2009年調査時と比べ横ばい。 「環境問題への意識なし」が、約5%増加している。</p>	<p>①容器包装の過剰感 7割以上の者がレトルト食品の外箱、インターネットで購入した商品の外箱・緩衝材について過剰感を感じている。</p> <p>②食品を購入する際の意識 企業名や商品名、生産地、栄養等の成分表示等については、6割を超える者が意識しているが、容器包装が少ない商品、環境配慮をPRしている商品について意識している者は約5割。</p> <p>③インタビュー調査における主な回答 ・詰め替え製品に対しては概ね好意的。 ・余計な包装がないもの、捨てる手間のかからないものが良い。 ・自宅で多く使う食品等に関しては簡易包装や個包装をなくした商品が良い。</p>	<p>①スーパーなどで売っている食品でもっと簡易包装でいいと思う食品について 最も多かったのは、食品トレイに関するコメントであり、肉・魚トレイについては、無駄であるとする一方、状態を見るためトレイがあった方が良いとの意見有。野菜の袋やトレイは不要であり、ばら売りがいいとの意見有。 加工食品のトレイは、取り出しにくい等の意見有。外箱は、レトルト食品等が不要との意見有。個包装は、お菓子、カップ麺のかやくなど不要との意見有。包装材は、贈答品などは過剰包装との意見有。</p> <p>②簡易包装の食品について ほとんどが、簡易包装に賛成の意見。利点は、ごみが出ない、かさばらない、分別の手間が減る等。一方、欠点は、衛生面、汁漏れ、見栄え等の意見有。</p>